

# 大瀧建築 浜松市

## 地域に調和した パッシブ住宅

所在地 浜松市西区篠原町20263-1  
事業内容 新築住宅・リフォーム・増改築工事の設計、  
施工、管理など



### 概要 取組内容紹介

太陽光や風の流れなど自然エネルギーを利用し省エネルギーで快適な住まいを実現する「パッシブ指向住宅」を開発・商品化。伝統的木造日本家屋の工法を守りつつ草屋根（屋根緑化）や天竜材の活用なども行う。



### 環境課題の解決 太陽光と自然の風の流れを生かした伝統的木造家屋

#### 環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

大瀧建築は、地域の特性や環境に合わせ、太陽光や自然の風の流れなど自然エネルギーを最大限活用した家づくり「パッシブ指向住宅」を提案している。

「パッシブ指向住宅」は、自然エネルギーを最大限活用することで、断熱・遮熱・蓄熱をコントロールし、快適な住環境を実現することを目的としている。

例えば、季節ごとの太陽高度を計算し軒の長さに工夫を加えたり、季節ごとの室内の風通しを分析し、窓の設置場所を工夫するなどして、室内への太陽光照射と風の流れを調整し、室内の温度環境を一定に保っている。

このように自然エネルギーを活用し、室内の断熱・遮熱・蓄熱をコントロールすることにより、機械設備に頼らない住環境を実現している点は、環境に配慮した家づくりのモデルとして注目すべきである。



#### 展望

#### 設備に頼らず高断熱の家を実現

パッシブ指向住宅の普及拡大に向け、国産材の良さや国産材を使った家づくりについて、多くの人にその良さに気付いてもらうため、国産材や自然エネルギーを活用した家づくりと、それによって得られる快適な住環境についての情報を、SNSなどを通じてより一層積極的にアピールしていく。より説得力のある普及のため、今の住宅に不可欠な「高気密・高断熱」を達成した上で、

いかに機械設備に頼らず、快適な住環境にできるか、同業者等との情報交換や勉強会などで検討を重ねている。

また、草屋根や国産の無垢材を使った家づくりについては「草屋根の会」（兵庫県神戸市）、「静岡木の家ネットワーク」（静岡県浜松市）など目的を同じくする団体に加盟し、連携強化や情報交換を図りノウハウ等を得ることで更なる普及を目指している。

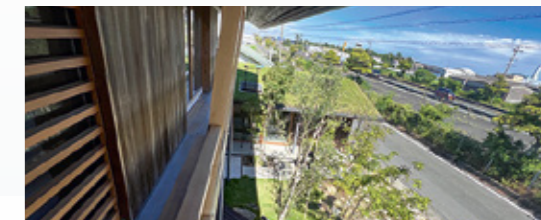


### 背景・地域課題 パッシブ指向住宅の周知

寒暖差の激しい環境である日本で育った木は、外国産材と比べ、年輪の間隔が狭く耐久性に優れていると言われている。しかし、長い間、家づくりに国産材と比べ安価な外国産材を使う時代が続き、国産材の需要が低下し、山の手入れがされず荒廃森林も増加した。近年は、需給逼迫による世界的な木材価格の高騰や脱炭

素社会の実現に向けた動きから、国産材の利用が進められつつあるものの、一朝一夕に改善されるものではない。植林や山の手入れ、木材生産体制のさらなる効率化など息の長い活動とそれを支える仕組みが必要となっている。まだまだ国産材の良さや国産材を活用した家づくりがあることを知らず、設備に頼って「高気密・高断熱」を

得ている人も多く、山の再活性化や、環境に配慮した家づくりの推進に向け、パッシブ住宅の周知が今も続く大きな課題だと、4代目の大瀧健太さんは話す。



### 具体的な取組内容 自然エネルギー活用を「見える化」。自然エネルギーの家で地域を循環

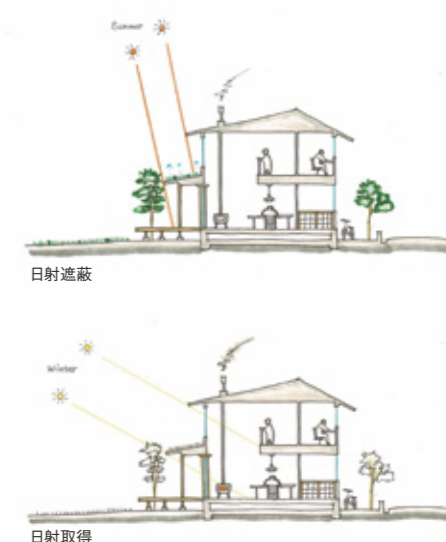
浜松を中心とする遠州地域は、比較的温暖で日照率が高いことが特徴である一方、冬は「遠州の空っ風」と呼ばれる西風が吹き続ける。

軒を長くすることにより、太陽高度が高い夏には日差しを遮蔽し、高度の低い冬には日差しを効果的に取り入れるようにすることにより太陽光照射をコントロールしている。

また、各方位からの風向および風速の頻度を表した図「風配図データ」をもとに季節ごとの室内の風通しを考慮し、「片引き込み窓」や「たてすべりだし窓」など窓の設置場

所を工夫し、室内へ自然の風の流れをつくることで、快適な住環境をつくり出している。

また、地元天竜の木材の活用により、地域資源の循環にも寄与している。木材の活用は、地元の林業の活性化や森林資源の循環につながることはもちろんのこと、昔ながらの手作業で行う木材加工の工程で出るおがくずなどは、牛を飼育する地域の畜産業者のもとで堆肥に生まれ変わり、畑で地元の野菜を育てる肥料にもなっており、家ができただけでなく、製造過程から環境にやさしい家づくりが行われている。



連携・協働会社

草屋根の会

情報提供

大瀧建築

情報提供

静岡木の家ネットワーク

### 今後の活動 環境配慮の家の普及に向け 大工技術を継承していく

天竜の木は太く良質であり、柱・梁・土台など、建物の構造を担う木材としての使用に適しています。それを住宅にする際にはその良さを生かせる風土を理解し、素材の適否を見極める知識、適材適所で使う技術が不可欠です。そんな思いから現在、静岡県立浜松工業高校の「建築研究部」で講師を務め、物づくりをする高校生の指導に当たっています。手工具の取り扱い方や手入れの仕方、木材加工、墨付けといった大工の技術は、ひと昔前には当たり前でしたが、時代とともに機械化が進み、活躍していた世代の高齢化が進んでいます。このままでは大工という仕事自体がなくなってしまうかもしれません。あえて機械に頼らず昔のやり方を続けているのは、私自身が父から多くのことを学んだように、技術を次の世代に継承していきたいからです。今後も環境に優しい木の家を建てたいという層に届けるためにも、これからも後進育成に力を注いでいきます。

大瀧建築代表 大瀧 健太

